

- ：対応済み
△：一部機能のみで動作可能
×：動作確認中 記号は 未対応
-：非対応
- 本定部分は、決定次第公開されます。
-動作確認中のものは、検証完了次第情報更新します。
-注意事項は対応しない場合が殆どです。

製品名		実行バージョン	Windows 10 →Ver.20H2	Windows 10 Ver.21H1	Windows 10 Ver.21H2	Windows 10 Ver.22H2	Windows 11 Ver.21H2	Windows 11 Ver.22H2	Windows Server 2022	対応予定バージョン	対応時期・備考
QND Premium		Ver.11.0.7i	△	△	△	△	△	△	△	未定	■Windows 10 Ver.1903以降 【制限事項】 ・外部メディア駆動機能が有効の場合、Windows Sandboxは起動しません。 ・アプリケーショングードで、Windows Sandboxの起動を禁止できません。 ・Windows 10 v2004以降では、グループポリシーが設定されていない場合、「Windows 10/11 の更新制御」による設定の変更ができません。 ・ISM機能により収集したAndroidクライアントのホスト名が表示されません。 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です。 ・Windows Subsystem for Linux 1.0のファイルシステムに対する配布はできません。(Ver.21H2では配布が行えます) ・Windows 10 v1903でSemi-Annual Channel (Targeted) の設定が廃止されたため、ソリューション利用時に次の注意事項があります ・「フランチ準備レベル：SACT」を設定したタスクを実行しても、OSの動作に反映されません。インベントリ収集すると「SACT」として情報が取得されます ■Windows 11 Ver.21H2以降 【制限事項】 ・カスタムイベントリ「HDD 健全性チェック」が取得されません。 ・アプリケーショングードで、Windows Sandboxの起動を禁止できません。 ・グループポリシーが設定されていない場合、「Windows 10/11 の更新制御」による設定の変更ができません。 ・ISM機能により収集したAndroidクライアントのホスト名が表示されません。 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です。 ・Windows Subsystem for Linux 1.0のファイルシステムに対する配布はできません。 ・Windows 10/11.0更新制御利用時に「フランチ準備レベル：SACT」を設定したタスクを実行しても、OSの動作に反映されません。インベントリ収集すると「SACT」として情報が取得されます ■Windows Server 2022 【注意事項】 ・Windows Subsystem for Linux 1.0のファイルシステムに対する配布はできません。 ■Windows 10 Ver.21H2以降 【制限事項】 ・Windows 10更新モデル「General Availability Channel」が「SAC」と取得される ■Windows 11 Ver.22H2 【制限事項】 ・「Windowsセキュリティ」で「スマート アプリ コントロール」をオフにする必要があります。オンにするとQNDクライアントがインストールできません。
	SPM	Ver.3.9.2i	○	○	○	○	○	△	○	未定	■Windows 10 Ver.1903以降 / Windows 11 Ver.21H2以降 / Windows Server 2022 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です。 ・コンバート実行中にリフレッシュPCを利用したホリシ条件の更新スケジュールを実行するとSPMコンソールがフリーズすることがあります ・現象発生時はタスクマネージャーからSPMコンソールを終了し再度コンソールを起動するようお願いします ・「ハイコントラスト」を設定すると、SPMコンソールでグレーアウトとなっている表記が見えなくなる場合があります ■Windows 11 Ver.22H2 【制限事項】 ・「Windowsセキュリティ」で「スマート アプリ コントロール」をオフにする必要があります。オンにするとSPMクライアントとSPMコンソールがインストールできます。
	QPM	Ver.1.2i SP15	○	○	○	○	○	○	○		■Windows 10 Ver.1903以降 / Windows Server 2022 / Windows 11 Ver.21H2以降 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です
	URL Filtering	Ver.5.2.3	○	○	○	○	○	△	-	未定	■Windows 10 Ver.1903以降 / Windows 11 Ver.21H2以降 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です ■Windows 11 Ver.22H2 【制限事項】 ・「Windowsセキュリティ」で「スマート アプリ コントロール」をオフにする必要があります。
	QND ClientLog	Ver.2.6.11.5i (*1)(*2)	○	○	△	△	△	△	△	未定	■Windows 10 Ver.1903以降 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です *1 Ver.2.6.10でも同様 *2 QCL Ver.2.6.9では以下の現象が発生します ・260文字以上のフォルダパスでファイル操作をすると、QCLクライアントが強制終了する ■Windows 11 Ver.21H2 【制限事項】 ・Power Automate Desktopでファイル操作時に、操作ログが取得できないことがある ・Power Automate Desktopの「ドキュメント印刷」でファイル印刷する場合、プリンターログが取得されない ・Windows1.0の新機能であるスナップ レイアウト機能とスナップ グループ機能が、QCLコンソールでは使用できない ・Windows1.0の新機能であるコンストラクターを使用している場合、QCLコンソールのスナップショットビューでスナップショットが表示されない ・QCLクライアントのアンインストールした場合、イベントログにエラーが記録されることがある ■Windows Server 2022 【制限事項】 ・クライアント自動（バージョンアップ機能にて、Windows Server 2022 が Windows Server 2019として認識される ■Windows 10 Ver.21H2 【注意事項】 ・QCLクライアントのアンインストールした場合、イベントログにエラーが記録されることがある ■Windows 11 Ver.22H2 【制限事項】 ・「Windowsセキュリティ」で「スマート アプリ コントロール」をオフにする必要があります。 ・Power Automate Desktopを使用して印刷時の印刷口のセキュリティ名の先に「*」が付与される。
QND Standard		Ver.11.0.7i	△	△	△	△	△	△	△	未定	■Windows 10 Ver.1903以降 【制限事項】 ・アプリケーショングードで、Windows Sandboxの起動を禁止できません。 ・Windows 10 v2004以降では、グループポリシーが設定されていない場合、「Windows 10/11 の更新制御」による設定の変更ができません。 ・ISM機能により収集したAndroidクライアントのホスト名が表示されません。 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です ・Windows Subsystem for Linux 1.0のファイルシステムに対する配布はできません。(Ver.21H2では配布が行えます) ・Windows 10 v1903でSemi-Annual Channel (Targeted) の設定が廃止されたため、ソリューション利用時に次の注意事項があります ・「フランチ準備レベル：SACT」を設定したタスクを実行しても、OSの動作に反映されません。インベントリ収集すると「SACT」として情報が取得されます ■Windows 11 Ver.21H2以降 【制限事項】 ・カスタムイベントリ「HDD 健全性チェック」が取得されません。 ・アプリケーショングードで、Windows Sandboxの起動を禁止できません。 ・グループポリシーが設定されていない場合、「Windows 10/11 の更新制御」による設定の変更ができません。 ・ISM機能により収集したAndroidクライアントのホスト名が表示されません。 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です ・Windows Subsystem for Linux 1.0のファイルシステムに対する配布はできません ・Windows 10/11.0更新制御利用時に「フランチ準備レベル：SACT」を設定したタスクを実行しても、OSの動作に反映されません。インベントリ収集すると「SACT」として情報が取得されます ■Windows Server 2022 【注意事項】 ・Windows Subsystem for Linux 1.0のファイルシステムに対する配布はできません ■Windows 10 Ver.21H2以降 【制限事項】 ・Windows 10更新モデル「General Availability Channel」が「SAC」と取得される ■Windows 11 Ver.22H2 【制限事項】 ・「Windowsセキュリティ」で「スマート アプリ コントロール」をオフにする必要があります。オンにするとQNDクライアントがインストールできません。
	SPM	Ver.3.9.2i	○	○	○	○	○	△	○	未定	■Windows 10 Ver.1903以降 / Windows 11 Ver.21H2以降 / Windows Server 2022 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です ・Windows Sandbox内にインストールしたホリシ条件の更新スケジュールを実行するとSPMコンソールがフリーズすることがあります ・コンバート実行中にリフレッシュPCを利用したホリシ条件の更新スケジュールを実行するとSPMコンソールがフリーズすることがあります ・現象発生時はタスクマネージャーからSPMコンソールを終了し再度コンソールを起動するようお願いします ・「ハイコントラスト」を設定すると、SPMコンソールでグレーアウトとなっている表記が見えなくなる場合があります ■Windows 11 Ver.22H2 【制限事項】 ・「Windowsセキュリティ」で「スマート アプリ コントロール」をオフにする必要があります。オンにするとSPMクライアントとSPMコンソールがインストールできます。
	QPM	Ver.1.2i SP15	○	○	○	○	○	○	○		■Windows 10 Ver.1903以降 / Windows Server 2022 / Windows 11 Ver.21H2以降 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です

製品名	実行バージョン	Windows 10 ～Ver.20H2	Windows 10 Ver. 21H1	Windows 10 Ver. 21H2	Windows 10 Ver. 22H2	Windows 11 Ver. 21H2	Windows 11 Ver. 22H2	Windows Server 2022	対応予定バージョン	対応機種・備考
		対応状況	対応状況	対応状況	対応状況	対応状況	対応状況	対応状況		
QND Advance	Ver.11.0.7i	△	△	△	△	△	△	△	未定	●Windows 10 Ver.1903以降 【制限事項】 ・外部メディア接続機能が有効の場合、Windows Sandboxは起動しません ・アプリケーションOSで、Windows Sandboxの起動を禁止できません ・Windows 10 v20H2以降では、グループポリシーが設定されていない場合、「Windows 10/11 の更新制御」による設定の変更ができません。 ・ISM連携により収集したAndroidクライアントのホスト名が表示されません。 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です ・Windows Subsystem for Linux 1.0のファイルシステムに対する配布はできません。(Ver.21H2では配布が行えます) ・Windows 10 v1903でSemi-Annual Channel (Targeted) の設定が廃止されたため、ソリューション利用時に次の注意事項があります 「プラン手裏しレベル: SACT」を設定したタスクを実行しても、OSの動作に反映されません。インベントリ収集すると「SACT」として情報が取得されます ●Windows 11 Ver.21H2以降 【制限事項】 ・カスタムインベントリ「HDD 健全性チェック」が取得されません。 ・アプリケーションOSで、Windows Sandboxの起動を禁止できません ・グループポリシーが設定されていない場合、「Windows 10/11 の更新制御」による設定の変更ができません ・ISM連携により収集したAndroidクライアントのホスト名が表示されません。 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です ・Windows Subsystem for Linux 1.0のファイルシステムに対する配布はできません ・Windows 10/11の更新制御利用時に「プラン手裏しレベル: SACT」を設定したタスクを実行しても、OSの動作に反映されません。インベントリ収集すると「SACT」として情報が取得されます ●Windows Server 2022 【注意事項】 ・Windows Subsystem for Linux 1.0のファイルシステムに対する配布はできません ●Windows 10 Ver.21H2以降 【制限事項】 ・Windows 10更新モデル「General Availability Channel」が「SAC」と取得される ●Windows 11 Ver.22H2 【制限事項】 ・「Windowsセキュリティ」で「スマート アプリ コントロール」をオフにする必要があります。オンにするとQNDクライアントがインストールできません。
	SPM Ver.3.9.2i	○	○	○	○	○	△	○	未定	●Windows 10 Ver.1903以降 / Windows 11 Ver.21H2以降 / Windows Server 2022 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です ・コンバート実行中にリファレンスPCを利用したポリシー条件の更新スケジュールを実行するとSPMコンソールがフリーズすることがあります ・更新発生時はタスクマネージャからSPMコンソールを終了し再度コンソールを起動するようお願いします ・「ハイコンテキスト」を設定すると、SPMコンソールでブレークアウトとなっている表記が見えなくなる場合があります ●Windows 11 Ver.22H2 【制限事項】 ・「Windowsセキュリティ」で「スマート アプリ コントロール」をオフにする必要があります。オンにするとSPMクライアントとSPMコンソールがインストールできません。
	QPM Ver.1.2i SPl5	○	○	○	○	○	○	○		●Windows 10 Ver.1903以降 / Windows Server 2022 / Windows 11 Ver.21H2以降 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です
	License Guard Ver.5.2	○	○	○	x	○	x	○		
	URL Filtering Ver.5.2.3	○	○	○	○	○	△	-	未定	●Windows 10 Ver.1903以降 / Windows 11 Ver.21H2以降 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です ・Windows Sandbox内のブラウザがもよおすアプリの連携は制御されません ●Windows 11 Ver.22H2 【制限事項】 ・「Windowsセキュリティ」で「スマート アプリ コントロール」をオフにする必要があります。
QND ClientLog	Ver.2.6.11.5i (*1)(*2)	○	○	△	△	△	△	△	未定	●Windows 10 Ver.1903以降 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です *1 Ver.2.6.10でも同様 *2 QCL Ver.2.6.9では以下の事象が発生します ・260文字以上のフォルダパスでファイル操作をすると、QCLクライアントが異常終了する ●Windows 11 Ver.21H2 【制限事項】 ・Power Automate Desktopでファイル操作時に、操作ログが取得できないことがある ・Power Automate Desktopの「ドキュメント印刷」でファイル印刷する場合、プリンターログが取得されない ・Windows1.0の新機能であるスナップ レイアウト機能とスナップ グループ機能が、QCLコンソールでは使用できない ・Windows1.0の新機能であるコンストラクターモードを利用している場合、QCLコンソールのスナップショットビューでスナップショットが表示されない ・QCLクライアントのアンインストールした場合、イベントログにエラーが記録されることがある ●Windows Server 2022 【制限事項】 ・クライアント自動バージョンアップ機能にて、Windows Server 2022 が Windows Server 2019として認識される ●Windows 10 Ver.21H2 ・QCLクライアントのアンインストールした場合、イベントログにエラーが記録されることがある ●Windows 11 Ver.22H2 ・「Windowsセキュリティ」で「スマート アプリ コントロール」をオフにする必要があります。 ・Power automateを使用して印刷時の印刷ログのドキュメント名の先頭に「*」が付与される。
	Ver.2.6.11.5i (*1)(*2)	○	○	△	△	△	△	△	未定	●Windows 10 Ver.1903以降 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です *1 Ver.2.6.10でも同様 *2 QCL Ver.2.6.9では以下の事象が発生します ・260文字以上のフォルダパスでファイル操作をすると、QCLクライアントが異常終了する ●Windows 11 Ver.21H2 【制限事項】 ・Power Automate Desktopでファイル操作時に、操作ログが取得できないことがある ・Power Automate Desktopの「ドキュメント印刷」でファイル印刷する場合、プリンターログが取得されない ・Windows1.0の新機能であるスナップ レイアウト機能とスナップ グループ機能が、QCLコンソールでは使用できない ・Windows1.0の新機能であるコンストラクターモードを利用している場合、QCLコンソールのスナップショットビューでスナップショットが表示されない ・QCLクライアントのアンインストールした場合、イベントログにエラーが記録されることがある ●Windows Server 2022 【制限事項】 ・クライアント自動バージョンアップ機能にて、Windows Server 2022 が Windows Server 2019として認識される ●Windows 10 Ver.21H2 ・QCLクライアントのアンインストールした場合、イベントログにエラーが記録されることがある ●Windows 11 Ver.22H2 ・「Windowsセキュリティ」で「スマート アプリ コントロール」をオフにする必要があります。 ・Power automateを使用して印刷時の印刷ログのドキュメント名の先頭に「*」が付与される。

製品名	実行バージョン	Windows 10 ～Ver.20H2	Windows 10 Ver.21H1	Windows 10 Ver.21H2	Windows 10 Ver.22H2	Windows 11 Ver.21H2	Windows 11 Ver.22H2	Windows Server 2022	対応予定バージョン	対応時期・備考
		対応状況	対応状況	対応状況	対応状況	対応状況	対応状況	対応状況		
ISM CloudOne	Ver.7.3.1i	○	○	○	○	○	△	○		■Windows 10 Ver.1903以降 【制限事項】 ・Windows 10 v2004以降の場合、ハードウェアイベントリの「Windows Update情報」にある「更新方法」が変更になる場合があります ・ミドルウェアポリシー「コンピューターの構成」、「管理用テンプレート」、「Windowsコンボ-ネット」、「Windows Update」で、「自動更新を構築する」を「無効」にし、「7・自動ダウンロード、インストール時に通知、再起動を通知」を選択している場合に本事項を構築 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です ・Windows Subsystem for Linuxのファイルシステムに對する配布はできません ・Windows 10 v1903でSemi-Annual Channel (Targeted) の設定が停止されたため、Windows 10 Update設定利用時に次の注意事項があります a. Windows 10 Update設定で、「更新モデルを敷設する」SAC」を選択してもクワイアメントに取換されません b. ハードウェアイベントリの「Windows 10 更新モデル」が常に「SAC」になります ■Windows 10 Ver.21H2以降 【制限事項】 ・Windows 10更新モデル「General Availability Channel」が「SAC」と取換される ■Windows 11 Ver.22H2 【制限事項】 ・「Windowsセキュリティ」で「スマート アプリ コントロール」がオンの場合での動作は非対応です
	外部メディア制御（オプション）	Ver.7.3.1i	○	○	○	○	○	-		■Ver.1903以降 【注意事項】 ・外部メディア制御機能が有効の場合、Windows Sandboxは起動しません
	操作ログ（オプション）	Ver.7.3.1i	○	○	○	○	○	○		・
	ふるまい検知（オプション）	Ver.3.4.6	○	○	○	○	○	○		・
	ディスク暗号化（オプション）	82.10.9575	○	x	x	x	x	-	未定	・
	URL Filtering（オプション）	Ver.5.2.3	○	○	○	○	○	△	未定	■Windows 10 Ver.1903以降 / Windows 11 Ver.21H2以降 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です ・Windows Sandbox内のブラウザおよびアプリの通信は制限されません ■Windows 11 Ver.22H2 【制限事項】 ・「Windowsセキュリティ」で「スマート アプリ コントロール」をオフにする必要があります。 ・Android 11以降の端末から、Android64以上のバージョンをご利用の場合にAndroid版 Safeブラウザを経由した特定アプリの起動ができません。（2023/3/末適用予定） Safeブラウザを経由しない形で該当アプリを開くようお願いします。 例：「Teams」「ドコモあんしんセキュリティ」
	Windows10/11アップデート支援（オプション）	Ver.7.3.1i	○	○	○	○	○	x	-	■Windows 11 Ver.22H2（2024年1月末 対応予定） ・
KeyServer	Ver.7.8	○	○	○	○	○	○	○	未定	■Windows 10 Ver.1903以降 / Windows 11 Ver.21H1以降 / Windows Server 2022 【注意事項】 ・Windows Sandbox内にインストールした場合は動作保証外です ・「コントラストテーマ」を使用した場合、UIの表示が非常に見づらい状態となります
eX WP	Ver.4.4i SPS	△	△	△	△	△	△	△		■Windows 10 Ver.1903以降 【制限事項】 ・RPIモード、またはRP2モードの場合、Windows Sandboxは起動しません ■Windows 10 Ver.20H2以降 ・Windows 10 20H2以降へのバージョンアップに失敗する場合があります ■Windows 10 Ver.21H2以降 ・Windows 10のハイコントラストを設定すると、AdminMenuの文字が見えなくなります ■Windows 11 Ver.21H2以降 ・アクセシビリティコントラストテーマを「夜間」に設定すると、AdminMenuの文字が見えなくなります ■Windows Server 2022はAdmin Menuの非対応となります
QQR	Ver.1.4	○	x	x	x	x	x	x	未定	■Windows 10 Ver.21H1 動作検証中 ■Windows 10 Ver.21H2 / Windows 11 Ver.21H2/22H2 検証時期調整中 ■Windows Server 2022 検証時期調整中
Quality Gaiho PDF Suite	Ver.5.5	△	△	△	△	△	△	△		■Windows 10 Ver.1903/1909/2004/2009/20H2/21H1/22H2/Windows 11 Ver.21H2 /Windows Server 2022 【制限事項】 ・Windows 10 1903以降、Windows 11、Windows Server 2022においてGaiho PDF Suite-インストール時、PDFビューアをGaiho Docに変更しても、設定が変更されません ■Windows 11 Ver.21H2/22H2 ・コントラストテーマを選択した際、一部UIが正しく表示されません ・Office 未インストール環境で、テキストファイルをPDFファイルへ変換できません ■Windows 11 Ver.22H2 【制限事項】 ・「Windowsセキュリティ」で「スマート アプリ コントロール」をオフにする必要があります。オンにするとQNDクワイアメントがインストールできません。

製品名	実行バージョン	macOS (11)	macOS (12)	macOS (13)	macOS (14)	対応予定バージョン	対応情報・備考
		対応状況	対応状況	対応状況	対応状況		
QND Premium/Advance/Standard	Ver.11.0.7i	△	△	△	△	未定	【制限事項】 -TCP関連接続機能は利用できません。 -以下のインベントリプラグインを利用できません。 ・フォントインベントリ(BuPackFont) ・コンソール(Console.app) ・TextEncoding(TextEncoding.app) -sandboxタイプのアプリケーションは、SUを利用して起動できません。sandboxタイプのアプリケーションの監視方法は、ActivityMonitor.appのメニューから「View」→「Columns」→「Sandbox」をOnにします。ActivityMonitor.appの画面の「Sandbox」の列に、sandboxタイプのアプリケーションは「Yes」※sandboxタイプのアプリは「No」が表示されます。 -ソフトウェア配布の監視として「タスク」→「配布」→「ファイル転送」で検出する「配布するソフトウェアのプロパティ」で「無定ファイルが転送先フォルダにある場合転送、なければ転送しない」を指定時、比較先ディレクトリ名を指定しても参照せず、転送先ディレクトリ名を参照して動作します。 -ソフトウェア配布の監視として「タスク」→「配布」→「ファイル転送」で検出する「配布するソフトウェアのプロパティ」で「比較先ディレクトリ名を指定して「コピーしないファイルを除く」をオンで利用する場合、事前にmacOSの設定で、「システム環境設定」→「セキュリティとプライバシー」→「ファイアーウォール」で「QNDS」に対するファイアウォール設定を無効にする必要があります。 -Apple M1 CPU では、インベントリのCPU スピード、CPU 外部クロックは、正確な値を返できません。 -任意インベントリを入れた内部をmacOS12の監視機能で監視すると監視結果を表示する際に出しに何も表示されません。 -macOS10.15以降では、クワイアントでクワイアントモジュール更新後の最新の起動時、「QNDS.app」は、アクセラビリティ機能を使用してこのコンピュータを制御することを求めています。」の画面が表示されますので、許可設定してください。 -macOS10.14以降では、クワイアントでクワイアントモジュール更新後の最新の起動時、「QNDS.app」は、アクセラビリティ機能を使用してこのコンピュータを制御することを求めています。」の画面が表示されますので、許可設定してください。 -MacOSAdobe製品情報収集プラグイン(AdobeInfo)実行時、クワイアントでmacOS10.14以降は、本プラグインの初期とAdobe製品ライセンスの取得、変更後のインベントリ更新時にクワイアントで「AdobeInfo」は、本プラグインに含まれる「Adobe Licensing Information」タイププラグイン、アクセスしようとしています」のダイアログが表示されます。本メッセージが表示された場合、パスワードにログインユーザーのPCログインパスワードを入力して、「常に許可」ボタンをクリックしてください。なお、本メッセージは、ログインユーザー毎に表示されます。 -また、本メッセージは、PC再起動時に表示される場合があります。本メッセージに反応しない場合、タスクが終了しない状態となります。 -スレーブサーバに転送先のパスを指定、指定したディレクトリに書き込みが行われる場合があります。 -macOS13以降を利用するためには、QNDS1.0.1を更新プログラム(202302)に更新する必要があります。 -macOS13以降では以下の制限があります。 ・クワイアントの「セキュリティとプライバシー」の「フルディスクアクセス」に「QNDS」を手動登録し権限をonに設定する必要があります。(QT0836) ・Adobeプラグイン(AdobeInfo)は、クワイアントで初期起動時に「...フォルダ内のファイルにアクセスしようとしています」と画面が表示され「On」「許可しない」が実行されます。この画面で「OK」とする必要があります。「許可しない」とした場合は、手動で「フルディスクアクセス」内のAdobeプラグイン (AdobeInfo) をOnにする必要があります。(QT0839) ・(QualitySoft Corporation)をバックグラウンドでの実行を許可する必要があります。(QT0841) ・スタンドアロンインベントリ収集タスクは利用できません。(QT0838) ・スレーブサーバのホストは「無定したシステムに接続」機能は利用できません。(QT0840) -任意インベントリにて「ホストグループ選択」の項目がある場合、任意インベントリ全体が更新されません。(QT0854) -macOS14では以下の制限があります。 ・新機ユーザーで初期ログインした場合、QPオプションの位置が変更になります。再ログインや再起動後は、本画面は発生しません。(QT0852) ・ログインモードで実行はできません。なお、本実行は可能です。(QT0853) ・QNDSクワイアントをApple silicon端末にインストールする場合はRosetta2インストールが必要です。(QT0849)
QND ClientLog	Ver.2.6.11.5i	x	x	x	x	未定	【制限事項】 -画像収録設定(*)でQND ClientLogクワイアントを許可する必要があります。 -(*)画像収録で許可する手順 1.端末上で任意の操作ログクワイアントを発生させる 2.05標準の「システム情報設定」アプリの「セキュリティとプライバシー」→「画像収録」からQND ClientLogクワイアントを許可する -macOS 11 / 12では一部のログが正しく取得できない、ログイン時にエラーが記録される等、正しく動作しません。 -macOS 13にて外部デバイスへの書き出しログが取得できない -macOS 13にて、「バックグラウンドでの実行を許可」からQCLUserAgentをOFFにした場合、QCLクワイアントが動作しなくなる
ISM CloudOne	Ver.7.3.1i	○	○	△	△	未定	【制限事項】 -ISMクワイアントのインストール時に、ファイルのアクセスを許可する必要があります。 -Ver.6.1.0以前のISMクワイアントをインストールして起動すると「...フォルダ内のファイルにアクセスしようとしています」と画面が表示され、ISMクワイアントの通知を許可しない場合、アラート通知やメッセージ通知が表示されません。 -画像収録設定(*)でISMクワイアントを許可していない場合、操作ログクワイアントのスクリーンショットが暗転とメニューバーの表示になります。また、デスクトップに表示されているアプリケーションの機能は表示されません。 -(*)画像収録で許可する手順 1.端末上で任意の操作ログクワイアントを発生させる 2.05標準の「システム情報設定」アプリの「セキュリティとプライバシー」→「画像収録」からISMクワイアントを許可する -macOS 10.14CISMクワイアント (64bit版) をインストールした状態でmacOS 10.15バージョンアップすると、外部デバイス制御と操作ログ機能が正常動作しない場合があります。 -macOS 10.15にISMクワイアントを新規インストールした場合は正常に動作しません。 -macOS 10.15.0以前にVer.6.8.10以上のクワイアントはインストールできません。Ver.6.8.9をご利用ください。 -Mac OS 12以降Mac OS 13以降にアップデート後、外部デバイス制御と操作ログ収集機能が利用できない場合があります。 【OSを再起動する】とこの画面は解除されます。 ・「バックグラウンドでの実行を許可」項目を手動で変更した場合に、以下の現象が発生いたします。 ・「バックグラウンドでの実行を許可」でQualitySoft CorporationをOFFにした場合：ISMクワイアントが動作しなくなります。 ・「バックグラウンドでの実行を許可」でSciencePark CorporationをOFFにした場合：外部デバイス制御と操作ログ機能ができませんくなります。 -macOS14では、SafeNetDocX側に接続したWebサイトを起動した場合、Webアクセスログが取得されます。(TT8229) 【注意事項】 -ISMクワイアントがインストールされている端末をmacOS Montereyにアップデートした場合、OSの通知アイコンに接続付きのマークがオーバーレイ表示される場合があります。本表示は端末を再起動することで解除します。なお、本表示がされてもISMクワイアントの動作に影響はございません。 -Ver.7.3.1を新規インストール、またバージョンアップした場合は「smc.log、smcctl.log、smcctl-vul.log」に多数のエラーが出力されますが、動作上の影響はありません。(TT8220)
KeyServer	Ver.7.8	○	○	○	x	未定	

製品名	実行バージョン	iOS (14)	iOS (15)	iOS (16)	iOS (17)	対応予定バージョン	対応情報・備考
		対応状況	対応状況	対応状況	対応状況		
ISM CloudOne	Ver.7.3.1i	△	△	△	△	未定	【注意事項】 - インバウス版アプリはiOS11.0 以降に非対応 【制限事項】 -監視モード(*)に切り替えられない場合、ポリシー構成プロファイルで制御ができない場合があります。 -(*)「Apple Configurator 2」でOSを監視する「監視モード」に切り替えることで監視が可能となります。ただし、iOS端末単位で設定が必要です。なお、iOS12からバージョンアップした場合、割り当てられているプロファイルが変更されるまでは非監視モードでも制御が可能です。変更される前の端末の制御ができなくなります。 -「設定アプリ」→「プライバシー」→「位置情報」で、iOSクワイアントプログラムの位置情報取得権限を「常に許可」及び「正確な位置情報」を有効にしなければ、位置情報を取得できません。 -個人データ取得時監視メッセージの内容が正常に表示されない場合があります。 -SMサーバで自己署名の証明書を使用している場合、MDM構成プロファイルをインストールできません。 -iOS17では、ロックダウンモードが有効の場合、位置情報が取得できません。 ※下記の機能は動作可能です。 -iOSクワイアントの初期登録 -インベントリ収集 -位置情報取得 -遠反機ポリシーの照会 -全配布ソフトウェアのアンインストール -パスコード初期化 -リモートロック -リモートワイプ -ソフトウェア配布 -禁止ソフトウェア設定 -アプリケーションポータル -MDM構成プロファイル情報通知

製品名	実行バージョン	iPadOS (14)	iPadOS (15)	iPadOS (16)	iPadOS (17)	対応予定バージョン	対応情報・備考
		対応状況	対応状況	対応状況	対応状況		
ISM CloudOne	Ver.7.3.1i	△	△	△	△	未定	【制限事項】 -監視モード(*)に切り替えられない場合、ポリシー構成プロファイルで制御ができない場合があります。 -(*)「Apple Configurator 2」でOSを監視する「監視モード」に切り替えることで監視が可能となります。ただし、iOS端末単位で設定が必要です。 -「設定アプリ」→「プライバシー」→「位置情報」で、iOSクワイアントプログラムの位置情報取得権限を「常に許可」及び「正確な位置情報」を有効にしなければ、位置情報を取得できません。 -個人データ取得時監視メッセージの内容が正常に表示されない場合があります。 -SMサーバで自己署名の証明書を使用している場合、MDM構成プロファイルをインストールできません。 -iPadOS17では、ロックダウンモードが有効の場合、位置情報が取得できません。 ※下記の機能は動作可能です。 -iOSクワイアントの初期登録 -インベントリ収集 -位置情報取得 -遠反機ポリシーの照会 -全配布ソフトウェアのアンインストール -パスコード初期化 -リモートロック -リモートワイプ -ソフトウェア配布 -禁止ソフトウェア設定 -アプリケーションポータル -MDM構成プロファイル情報通知